

# 松原高校の「課題研究」18年目

大阪府立松原高校(松原市、糺秀章校長)で、生徒各自が設けたテーマを研究発表する「課題研究」が18年目を迎えた。思考力、コミュニケーション力、説明力を高める狙いとともに、生徒自身が自らを見つめ直す機会となっている。(光長いづみ)

# 答えのない 問いへの 挑戦

課題研究は、「知る」「体験」「シェア」「伝える」の4段階に分かれ、生徒は1年間を通じて1テーマに取り組み。4月は文献研究、夏休みにフィールドワークを行い、9月の中間発表を経て、ことし1月13日に発表大会を迎えた。

### ■多彩な「問い」

「私は死ぬことを楽しみに、これから生きていきたいと思えます」。笑顔で言い切る女子生徒に教室が沸いた。福祉や歴史、国際情勢、映画に音楽。進路を見据えたものから、日常の小さな疑問まで、生徒の発表分野は多種多彩。冒頭の女子生徒のテーマは「死後の世界」だ。2016年度の全体のテーマは「答えのない

## 死ぬことを楽しみに生きる

## いじめ加害者だった自分は…

い問いへの挑戦!」。その真意を、担当の安希未子教諭は「これからの時代、社会で活躍する力は考えることと、人の心を動かせること。そのことに気付いてほしい」と話す。生徒は持ち時間の15分間を自作のボードやスライドを使い、不器用ながらも表情豊かに発表した。

### ■向き合う覚悟

目立ったのは、家族や自分自身について語る生徒が多かったこと。親との確執、いじめ経験の時に涙を流しながら赤裸々に語った。小林美由里さん(18)は「人との違いを豊

### ■学びの集大成

いじめた相手に会って謝罪したが、その場で相手の成長を見守る。同校は1996年に府内初の総合学科に改組。課題研究は3年間編入されている。中須賀久尚教頭は「私たちの役割は、生徒がいろんな色の花を咲かせるために土壌を作ること」とい



1年を通じて取り組んできたテーマについて発表する生徒 = 1月13日、松原市の松原高